

丸和ソーシャルビジネス賞受賞者からのメッセージ

プーザー・ケイトリンさん(2024年度受賞、株式会社 Guardian 代表取締役／受賞時29歳)

丸和ソーシャルビジネス賞に応募したのは、自分自身に挑戦し、コンフォートゾーンから抜け出したかったからでございます。それは非常に価値のある学習プロセスであり、私は今、他の多くの分野の人々とのコネクションを持っています。メンターからの貴重なアドバイスのおかげで、ビジネスプランやプレゼンテーションのスキルを磨くことができましたと思います。丸和ソーシャルビジネス賞は、私たちが独自の micata 相談センターを立ち上げるきっかけとなりました。その利用が広まって、悩んでいる子どもたちが、専門家に直接相談することで問題の解決につながることを期待しています。ぜひ応募してください。

吉川健太郎さん(2024年度受賞、株式会社 Famileaf 代表取締役／受賞時28歳)

私がこの賞に応募したのは、同じ志を持つ人たちとつながりを持ちたかったからです。最初は、ソーシャルインパクトをどう最大化できるかという点で難しさを感じていましたが、応募プロセスを通じて具体的な事例を学ぶことができ、視野が広がりました。特に、メンター制度の存在は大きく、経験豊富な方々からのフィードバックを受けながら、事業計画をより実践的で効果的なものにブラッシュアップすることができました。また、他の受賞者や審査員の方々との交流を通じて、自分では気づかなかった新たな視点を得られたことも貴重な経験でした。この受賞を機に、改めて自身の研究が社会課題の解決につながることを目指し、今も挑戦を続けています。

もし応募を迷っている方がいれば、ぜひ一歩踏み出してみてください！ たとえ受賞に至らなくても、このプロセスを通じて得られる学びや成長は計り知れません。皆さんの挑戦を心から応援しています！

横山真輔さん(2024年度受賞、株式会社ユニベル 代表取締役／受賞時38歳)

丸和ソーシャルビジネス賞の応募を迷われている方へ。世の中の負をアイデアと実行力で解決したい。でも、できるかな…。会社辞めるのか。そういえば、同期は出世したな。昔から仲良かったあいつは転職でうまくいっているらしい。副業からスタートしようかな。副業は NG か。家族もいるし、住宅ローンも…。家族の説得できるかな。自分は成功できるのだろうか。成功ってなんだ。自分が生きた差分で世の中を少しでも良くしたいっていつも言っているじゃないか。口だけか。いや、俺がやるんだ。

これは応募をする約 1 年前の僕の葛藤です。やらない理由はいくらでもある。やる理由は、目の前の人のため。まずはこの機会に飛び込んでみたらどうでしょうか。視界が開けるかもしれません。

弊社は、既存の大学間の連携で、大学生が学期ごとに学ぶ場所を選択できる仕組みを作る Campus Everywhere 事業(<https://www.univer-inc.com/>)に取り組んでいます。

高木理恵さん(2024年度受賞、株式会社アコフィット 代表取締役／受賞時57歳)

私は、丸和ソーシャルビジネス賞は2回目のエントリーで受賞しました。1回目は何がダメだったのかと色々考えるキッカケになりました。私のビジネスは高齢者問題を解決するために自分の介護経験と仕事で培った実績を活かして、生活習慣で元気に老いるメソッドを考案し 2018 年に起業しました。受賞する前からオンラインでやっている勉強会に参加させていただいている中、多くの知見を持った方々からの話を聞くことができたのは質の高い自問自答が出来たと思っています。また、メンターから的確な

アドバイスをいただき受賞する事ができました。受賞後は松下政経塾での研修もあり同期の方とのコミュニケーションも深まり視野が広がっています。今後もビジネスの成功と社会課題解決をする仲間と出会える事ができるのが丸和育志会だと思っています。是非、チャレンジしてみてください。

佐藤英明さん(2024年度受賞、合同会社ニュートリベース 代表/CEO/受賞時36歳)

栄養で明るい未来を共創することを目的に「無味無臭の栄養パウダーAyo(アヨ)」の事業に挑戦している佐藤と申します。ビジネスを通じた社会課題解決に向けた熱い想いをお持ちであれば、ぜひ丸和ソーシャルビジネス賞に挑戦してみてください。みなさんの挑戦を加速させるための素晴らしい機会になるかと思います。

丸和育志会の皆様、そして審査員の皆様には心から感謝申し上げます。特にメンターの長井さんからは事業計画のブラッシュアップや貴重なアドバイスをいただき大変感謝しております。

私たちもこの受賞を励みにより一層、社会課題の解決とソーシャルインパクト創出に貢献できるよう挑戦を重ねたいと思います。応募を検討されている皆様とも将来どこかでお会いし、お互いの挑戦内容を語り合えるのを楽しみにしています。

藤井琢也さん(2023年度受賞、株式会社 OptTech/受賞時 26歳)

ソーシャルビジネスではないと応募を迷っている方へ。私の事業内容「高機能外観検査用照明の開発」は、一見ソーシャルビジネスとは遠いテーマでした。しかし、財団趣旨の「社会貢献とそれに必要な利を追求する起業家支援」と私のビジョンが一致し、受賞に至ったと考えています。私は高専から大学院までモノづくりを専攻しており、技術者の給料体系や働く環境に課題を感じていました。この課題の解決は、より良い製品の開発に繋がり、様々な社会課題を解決することが出来ます。どんなサービスも誰かの課題を解決しています。まずは思い切って応募してみてください！！

多くの受賞者の方が丸和育英会や本コンテスト、メンターの方々のすばらしさをお伝えしていたため、少し違った内容を私のコメントとさせていただきます。

中森聖さん(2023年度受賞、いぬとれ株式会社/受賞時 39歳)

丸和ソーシャルビジネス賞に応募される方へ、過去に受賞された者の一人として僭越ではございますがメッセージを送らせていただきます。私も昨年、社会的課題に立ち向かうプロジェクトを推進し、その成果を評価していただきました。事業計画の練り直しや改善に、何度もメンターにお時間を頂き、様々なご意見を頂いたことでブラッシュアップすることができました。また、丸和育英会を通じて得られた貴重な人脈も、私のプロジェクトにおいて不可欠な支援となりました。

新たな応募者の方々には、情熱と創造性を持ち、自らのアイデアを社会に実現させる決意を持って挑戦していただきたいと願っています。

最後に、私が成長する上で欠かせなかったメンターである富田様に、心より感謝を申し上げます。富田様のご指導とご支援に、改めて深く感謝いたします。

葛西杏奈さん(2023年度受賞、株式会社 POTE 代表取締役/受賞時 30歳)

創業してまもない頃、募集要項にあるフレーズに共感し応募を決めました。事業を始めたばかりの時は、産婦人科をよくしていきたい！とワクワクする気持ちでいっぱいでしたが、進める中でしっかりと収益

を上げることの重要性を学びました。そんな時、ビジネスとして課題解決していく糸口を見つけられたらと期待し応募しました。

特に、メンターからの手厚いサポートには深く感謝しています。熱心なフィードバックのおかげで、事業プランの整理・ブラッシュアップができました。

同じく医療業界で活動する方との出会いが多かったことも、うれしいことのひとつです。

みなさんと交流できることを楽しみにしています！

須田直樹さん(2022年度受賞、100-SHIKI 代表／受賞時 45 歳)

私は独立初年度に、以前から温めていた企画について友人に相談していたところ、偶然にもその友人が過去にこの賞の受賞者であったことから、応募に関する精神的なハードルがさがり、この機会を活用して、一人で考えていたビジネスプランを客観的に評価して頂きながらブラッシュアップさせたい。という思いで応募させて頂きました。

一次審査通過後のメンターさんとのやり取りは、経験豊富な目線から良い評価を頂けた部分は自信となり、また、一人では辿り着くことができない領域の指摘やアドバイスを頂く事もできたりと、良い経験をさせて頂くことができ、大変感謝しております。

新規性のある取り組みは、一人だけで悩まず、色々な人とコミュニケーションをしながらハードルを超え、時には仲間となって頂けるような人との出会いが大切である事を日々実感しております。先ずは一步を踏み出し、想いの実現に向かって変化することにも勇気をもって挑戦してください！

高嶋尚子さん(2022年度受賞、Ukulele★Paradise 代表／受賞時50歳)

ソーシャルビジネス支援事業へのチャレンジは、「音楽やネット環境を活かして新しい風を教育現場に届けたい」そのスタートアップを支援いただきたいという思いからでした。このチャレンジは、「なぜこの事業をやりたいのか、その必要性はどうか」を改めて深く考え、その実現に向けた行動を、具体的に落とすことが出来ました。特に2次審査に向けてのメンター制度は、ビジネスの先輩から、今までの自分では気づけない視点のアドバイスをいただき、とても貴重で有難い経験でした。丸和育志会財団の理念に「自分で考え、仲間をつくり、実践する」とありますが、チャレンジの課程から、この理念を体感する機会をいただいていたように思います。ぜひ、この経験を多くの方に味わっていただきたいです。

北村健さん(2022年度受賞、株式会社ソラハル代表／受賞時 38歳)

私たちは 2020 年、コロナ禍で社会が停滞する中で創業し、「日本と世界の Well-being に貢献する」というビジョンを掲げ、様々な事業を模索してきました。ソーシャルビジネスは、スタートアップ型ビジネスとは異なり、資金調達や事業成長に苦勞することが多いものです。そのため自分たちの事業の必要性や意義について、時々、不安を感じることもあります。

そのような中で、丸和育志会からの応援をいただき、これを証として前に進もうという気持ちが強くなりました。アイデアやプレゼンテーションに対して詳細なアドバイスをいただけることも、このコンペティションの魅力の一つです。

受賞できなくても、自分たちの事業アイデアの価値や可能性を評価する良い機会になります。応募して損はありません。ぜひ挑戦ください。

山中享さん(2022年度受賞、LOOVIC 株式会社代表取締役/受賞時46歳)

私達は儲からないところに儲かるビジネスがあると、信じるところから始めました。徹底した探究と一流メンターからの壁打ち指導で、必ずその打開策があります。

散々儲からなさそう。と言われてきました。しかし、イノベーションは、見えるところに当然ありません。見えにくいところに、一定の定理が見つかってきます。

過去の常識に縛られず、顧客のペインに向き合うことが重要でした。結果、私達のプロダクト・サービスは、CES2023でも Innovation Awards を受賞することができました。

大切なことは、世界を変える志を持つこと。臆せずとりあえず動いてみて考える。そのチャレンジの連続が、最良の道へ導いてくれるはずです。

島岡学さん(2022年度受賞、お笑い芸人/受賞時45歳)

お笑い芸人として「お笑いを通じた社会課題の解決」をテーマにしたソーシャルビジネスを提案したが誰も耳を貸さなかった。藁にでもすがる思いで丸和ソーシャルビジネスに参加したところ「おもしろい」と言われ書類選考を通過、最終的にはソーシャルビジネス賞を受賞することができました。はい、「お笑いの力」で世界を変えます。

吉田公衛さん(2021年度受賞、HDL 合同会社 CEO/受賞時 35 歳)

私は「ドローン製品を利用した SE 育成事業」というプロジェクトで、丸和ソーシャルビジネス賞を受賞しました。新しく応募される方はもしかしたら「漠然とした不安を抱えている」かもしれません。しかし、そのような状態でもサポート体制がしっかりとしており、ビジネスモデル構築のみならず分からない点は経験豊富な専属のメンターが丁寧に教えてくださるので、安心して取り組める環境です。最終的には自分自身が生み出したビジネスモデルを我が子のように愛着が感じることが出来ます。新しい環境で挑戦し、それが自らの成長に確実に繋がっていく。丸和育志会であなたのやりたいことをどんどん提案してみませんか。

飯淵弘成さん(2021年度受賞、GO プランニング/受賞時 35 歳)

私は、過去に個人事業主・GO プランニングの代表として、第 7 回「丸和ソーシャルビジネス賞」を目指しました。その理由は、2つありました。一つは、ビジネスモデルの有意性を認めて頂くことにより、「信用」を得たかったことです。もう一つは、法人化へのきっかけを得ることでした。個人事業主としてそれなりにビジネスを続けていましたが、社会課題の解決へ影響力を持つために、法人化をしたいと考えていました。受賞させていただいたことにより、自らのビジネスモデルをさらに育てるべきであると決意。法人化への大きな後押しとなり、現在は3社の経営を行っております。新しくチャレンジされる皆さまのビジネスモデルや、そこに込められた志に触れられることを楽しみにしております。

渡邊玲央さん(2021年度受賞、株式会社 FireTech 代表取締役/受賞時40歳)

2021 年度丸和ソーシャルビジネス賞に応募したのは、丸和育英会の理念、特に、「《志》には、個人の願望を超え多くの人の夢や願望をも叶えてやろうとの気概、すなわち未来への強く厳しい挑戦意志が存在している。」という理念に共感したからです。

応募した事業「防点丸」は、今まで煩雑だった消防点検報告書作成業務を、スマホ、タブレットから簡便

に作成、内容を関係者内で共有できるクラウドサービスです。消防職員 14 年の経験、ソフトウェア開発の経験を生かして開発を進めています。

受賞に至るまで、メンターの方からのメンタリングで「small win」を積み重ねることの重要性を教えてくださいました。いただいたことは、今も心の支えになっています。

また、いただいた賞金のおかげで、システム開発を進めることができ、大変ありがたかったです。

清川英恵さん(2021年度受賞、etomoji 代表/受賞時37歳)

新しいビジネスを創出する志をお持ちの方へ。僥越ながら言葉を贈ります。ビジネスを進めるにあたり苦悩は後を経ちませんが、行動は自分を裏切りません。たった 1 人で始めたことも、行動すればいずれ必ず仲間ができます。先々で失敗をしても、必ず糧になります。失敗は、あなたを強くします。自分より若い人がすごい勢いで進んでいくのを見て、自信を無くすかもしれません。でも、あなたが考えるそれは、ずっと遠くの未来を見据えたものなはず。この長距離走を楽しみながら、走り抜けてほしいと願います。あなたの心の中で燦る情熱が、未来を大きく左右します。自分の気持ちを原動力に、人のために思い、企画を実行に移してください。がんばって！

柳生好彦さん(2021年度受賞、小豆島ヘルシーランド株式会社 共同創業者/相談役/受賞時69歳)

私は昨年応募させて頂き、お蔭様でこのような素晴らしい賞と賞金を頂戴し心から感激いたしました。この賞を授かりましたことに、大変誇りを感じております。

最終申請まで、何度も何度も橋本忠夫理事長自らのご指導を受け、修正、修正又修正していく度に事業計画が更に明確になり、計画がはっきりと現実のものとなっていきました。

そして、必ずこの計画以上の結果を追求し実践しなければならない、と身も心も引き締まってまいりました。また、当計画の協力者の方々が受賞を大変喜んでくださっており、受賞したことで更に協力者も増えております。私はこの計画を進化させ、いよいよ本年 10 月 19 日に新会社を 70 歳にして立ち上げ、人生の本番に向って前進します。ぜひ皆様も大きな可能性にチャレンジしてください。

齋藤早紀子さん(2021年度受賞、株式会社 FESTEEM 代表取締役/受賞時41歳)

賞に参加することで、ご自身のビジネスプランがブラッシュアップされるだけでなく、幅広いバックグラウンドを持つ起業家同士のつながりの機会にもなりますのでぜひご参加ください。趣旨にある「利を生まない法人は存続できず、社会に貢献しない法人には存在価値がない。」という難しいバランスには、考え抜く姿勢を続けられる強い熱意が必要であり、それを学ばせて頂けたと感じております。また“自分で考え、仲間を作り、実践する”の育成の場でもあります。事業活動を進めていくうえで、メンターの方や同時受賞者の方など、たくさんの人に支えられ、人との繋がりを実感しています。新たな交流の場をより広げられたらと思います。

中田一葉さん(2020年度受賞、COLLATE 代表/受賞時35歳)

私は2回目の挑戦で、受賞させていただきました。1回目・2回目共にメンターをつけて頂いたことで、事業プランがかなり整理されました。独立して間もない私にとって、相談や壁打ちができる存在が非常に心強かったです。また先輩経営者でもある審査員からの厳しいコメントで、自分の甘さや実行に足りていないことに気づくことができ、今でも自分を奮い立たせる原動力になっています。現在は、支援金

を活用させていただき、法人成りも実現しました。関わっていただいた皆様に、この場をお借りして御礼申し上げます。

自分の事業プランやプロジェクトになかなか自信が持てない方にとって、応募のハードルが高いと感じるかもしれません。ですが、事業の整理や説明練習の場として、ぜひ一度挑戦してみてもはどうでしょうか？応募する中で、前に進んでいる実感が持てると思います。私もまだまだ道半ばですので、一緒に志をもって実現していきましょう！

清水美雪さん(2020・2015年度受賞、メディカルラボパートナーズ代表／受賞時42歳)

私は起業して間もない頃に、丸和育志会の優秀プロジェクトを知り、応募しました。まだ実績が全くない頃でしたが、審査に向けてメンターの方と事業についてディスカッションさせていただく中で、事業の方向性やアクションプランを作成できたため、ビジネスプランをブラッシュアップすることができました。結果的に、優秀プロジェクト賞をいただけたので、思い切って全国に営業に出ることができました。そのお蔭で、今では日本全国に顧客を作ることができ、日々、忙しく活動できるようになった為、とても感謝しております。また、その時のメンターの方には、現在も事業に困った時に相談に乗っていただいております。私にとっては安心して相談できる良き相談者となっています。

起業して思い切って事業を前に進めたい方は、ぜひ、応募してみてください。

矢澤修さん(2020年度受賞、株式会社イースマイリー代表取締役／受賞時37歳)

丸和育志会のソーシャルビジネス賞は、過去受賞者の友人からの紹介で応募をいたしました。実は1度目は落選し、2度目の挑戦で受賞できたという経緯があります。

応募当時、まさにこれから始めようとしていた新しいプロジェクト構想があり、もし受賞ができれば支援給付金の100万円を活用してスタートダッシュできれば…という思いでした。1次審査通過後にメンターをつけていただき、ビジネスアイデアを何度もブラッシュアップする機会をいただきました。そのメンターは今でもとても応援をしてくれています。

受賞の有無に関わらず取り組みを見つめ直す機会にもなるので、挑戦したいことがあるなら是非応募してください！

小泉満さん(2019年度受賞、OPENPOST代表／受賞時50歳)

ブロックチェーン技術を活用したデジタルアセット管理システムおよびNFTマーケットプレイスを運営しています。社会人大学院のMBAを修了する際自身の起業プランを実践知論文として書き上げました。わたしが音楽家であった時に体験した“自身で生み出した創作物を自身で管理することができない忸怩たる想い”が起業の原動力になっています。受賞当時は創業1年目でまだ売上も立っていない時期でしたので丸和育志会から支援給付金をいただき大変助かりました。また大学院の恩師でもある本荘先生が丸和ソーシャルビジネス賞のメンターをされていたのでシームレスにご指導をいただくことができました。これまでの自身の起業経験を活かして最近ではスタートアップを目指す後輩起業家のメンタリングにも取り組んでいます。これまで自身の起業を支えていただいた方々への恩返しとして微力ながら起業家の育成にも取り組んでいきたいと考えています。

後藤学さん(2019年度受賞、株式会社 Helte／受賞時28歳)

丸和ソーシャルビジネス賞をいただいた際はビジネスとしても様々な変革期でビジネスモデルの変更や資金調達に取り組んでいました。その中で応募をさせていただき、選考過程で審査員の皆さまへビジネスを説明することで新たな視点や学びも多くあり、とても充実したプロセスを経て賞をいただくことができました。

これから申込を行う皆様も様々な異なる状況下で色々なものを背負って、あの手この手で検証や試行錯誤を繰り返しながら事業を進めているのではないかと思います。選考プロセスでの気付きも多くあるはずなので、現状の事業概要を経験豊富な審査員の皆さんへ発表し、賞を目指すことはもちろん現在の事業に改めて向き合い、事業をさらにシャープにし、学びの多い機会となればと願っております。ぜひ、賞を目指して頑張ってください。

安部博文さん(2019年度受賞、特定非営利活動法人uecサポート 理事長／受賞時66歳)

1. どんなことを考えて応募したか

事業の失敗リスクをできるだけ小さくしたいと考えていました(今もです)。自分たちで発見できないリスクを見つけるにはコンサルティングを受けるのが良い。そこでソーシャルビジネス賞に応募しました。

2. 受賞してどんなことが良かったか

(1)受賞以来、事業は成長し続けています(これが最大の効果)。

(2)事業で何をやろうとしているのか、シンプルに伝える重要性が分かったこと(しかし、実行はまだまだ)。

(3)事業計画書ができたこと(PDCAのCとAに役立つ)。

(4)丸和育志会からコンサルティングを受けたこと(戦略の曖昧さに指摘がありました)。

千葉佳祐さん(2019年度受賞、九州大学 理学府 化学専攻／受賞時24歳)

もし、これを見ながら、応募に悩んでいるのであれば、ぜひ応募してほしいです。僕は、応募してよかったです。振り返ると、当時の自分は、まだ学生で事業といえるほどの状況はありませんでした。プロトタイプ作りのために資金が必要でした。もしここで採択されればプロトタイプを作り、サービスを世に送り出せるのではないかと考えて応募しました。結果、アイデアしかない未熟な僕を信じて採択していただき、今では事業をお客様へ届けることができています。本当にありがたいです。ぜひ勇気を持って応募して、アドバイスをもらいながら前に進んでほしいなと思います。

重光喬之さん(2018年度受賞、任意団体 feese／受賞時38歳)

私は20代半ばで難病になり、医療や社会制度の狭間を実感してきました。退職後、同病者向けの情報共有サイトを運営し、病名に関係なく難病のある方の社会参加の機会を増やせないかと思い、応募しました。丸和育志会様からの支援金を元手に“難病者の社会参加を考える研究会”を立ち上げ、難病者の就労に関する調査、就労事例作り、政策提言などを行い、3年間の活動を難病者の社会参加白書にまとめました。全都道府県・市区町村に白書を送り、3つの提言と新たな調査も実施しました。難病に限らず一つのことに集中して取り組んでいると、他のことが見えなくなり、自分たちの常識は世間の非常識となります。丸和育志会に所属する多様な方々との交流は、俯瞰したり客観視する機会になります。何かチャレンジしたいという熱い思いがある方は奮って応募されてはいかがでしょうか。

中島かおりさん(2018年度受賞、にんしん SOS 東京代表理事／受賞時46歳)

応募当時、「10 代向けの性教育」をテーマに応募いたしました。プロジェクト実施計画の策定の中で、「事業を創り出す」という視点やどう継続し発展させていくのかについて、多くのご助言をいただきゼロから練り直し、「にんしん SOS 相談員育成研修プロジェクト」が出来ました。丸和育志会の皆さんとの MTG を繰り返す中で、挑戦したい社会課題にどう取り組むかだけでなく、ソーシャル「ビジネス」という視点を加えて考えることが、事業拡大を考える上でとても重要であることに気づかされました。本プロジェクトは現在も団体の中で一つの事業として収益をあげ続けており、企業や団体向けの研修パッケージの開発なども始まっています。今後も、チャレンジし続けていきたいと思います。

後藤誠さん(2018年度受賞、株式会社ゲーム・フォー・イット 代表取締役社長／受賞時48歳)

創業1年目は、初めての会社運営、初めての事業計画とプロジェクトとの立ち上げなど、不安な日々でした。そんな中、丸和ソーシャルビジネス賞に応募を通して、多くのアドバイスと共に

- ・今後会社がどうあるべきか？
- ・どのような指針を持って判断をしていくべきか？
- ・会社の意義はなにか？
- ・社会にどのようなインパクトを与えたいのか？

など、今後訪れるであろう様々な気づきを頂きました。

そして何よりも、私が立ち上げたい事業が「必要な事業である」と受賞を通してお墨付きを頂けたことです。これが何よりも嬉しく、背中を押し不安を払拭できる勇気となりました。創業7年目を迎えた今でも私を支える「基盤」になっています。これから応募を頂く皆様が、この賞を通してどんな困難にも負けず自分の描いた未来を築き上げていくための「基盤」になることを願っております。頑張ってください！

三浦里江さん(2017年度受賞、早稲田大学ビジネススクール／受賞時38歳)

私は、現在、『未来の教育インフラを創る』というミッションのもと、子供向けに「社会を丸ごと教科書に」したオンライン授業を届ける「キッズウィークエンド」というサービスを運営しております。ようやく、年間15万人が利用するサービスに育ち、さらに拡大を目指して奮闘しております。起業のきっかけは、丸和ソーシャルビジネス賞受賞であり、当会の皆様は、受賞後もサービスの認知拡大やネットワークのご紹介など、事業拡大のきっかけを惜しみなく提供して下さいます。丸和ソーシャルビジネス賞にチャレンジされる皆様、ぜひ、起業のきっかけを掴むだけでなく、志熱い仲間と一緒に切磋琢磨しながら事業を育て、目指す未来を創っていきましょう！

秋山和宏さん(2016年度受賞、東葛クリニック病院 副院長/みんながみんな健康になる 代表理事／受賞時52歳)

「チーム医療関連の草の根勉強会支援事業」の計画書作成中、橋本理事長から「この事業に関して、毎日、コツコツと積み上げていくタスクを決めなさい」と言われたことが印象に残っています。現在、当時の医療者向けのビジネスを一般市民、特にシニアの健康リテラシーを向上させるものに拡張させています。その際、毎日の隙間時間に教育動画を製作し、メディカルウォーキング(医歩)の e ラーニング教材を完成させることが出来ました。先のアドバイスを自分なりに実行してきたからだと思っています。私にとっ

でのビジネスの勘所、叡智となりました。応募を考えている皆さん、まずはチャレンジしてみましょう！事業の骨肉となる叡智が授けられるはずです。

青山美恵子さん(2015年度受賞、株式会社 Pont D' or 代表／受賞時 32 歳)

2015年に貴財団で受賞させていただきました。その当時はスタートアップで起業したばかりでもあったため、今以上に手探り状態の中で事業を進めて行っている中で応募させていただきました。社会性があるのか、成長性があるのかなど様々なことを模索しながら事業計画書を書き上げたことが思い出されます。受賞してありがたかったのは賞金を頂けたことももちろんありますが、様々な角度からご指摘、ご意見頂ける機会になったことで事業に対して客観視できるようになったことです。また横の繋がりもでき受賞者同士が集まったり、現状を報告しあったり、相談し合える経営者仲間ができたことも大きな財産となっています。

渡邊峻さん(2014年度受賞、(株)日本学術総合研究所代表／受賞時27歳)

応募を検討している方がいましたら、是非、チャレンジしてみてください。特に、この賞は公益財団法人が主催している賞のため、信頼感があります。また、民間のビジネスコンテストの場合は様々な規約や束縛がありますが、この財団ではありません。当時、私のメンターとなって頂けた先生には、今もお世話になってます。また、ビジネスの初期段階では、様々な悩みに直面すると思いますが、先輩の起業家からのアドバイスも貰えます。もし、何かチャレンジしてみたいけど悩んでる方がいましたら勇気を出して応募してみてください。

葛生善江さん(2014年度受賞、株式会社村越不動産 専務取締役)

自社の不動産を利用した短期滞在も長期滞在も楽しめるメニューにボランティアの機会等も加えレイオハナという滞在の仕組みをつくりました。現在もそうした活動のほか、新たに空き家問題の解決と活用、まちづくりの活動も始めました。

今年度は空き家対策で、『未来の東京』戦略 東京都民間空き家対策東京モデル支援事業に採択されました。丸和育志会の橋本先生、日比野先生をはじめ多くの皆様にご支援をいただき、思い切って踏み出した1歩が、その後の新たな活動に繋がっています。また応募にあたりさまざまなアドバイスをいただいたこと、仲間が増えたことがとても役立ち現在の活動に活かせており感謝しております。皆様もぜひ新たな一歩を。

黒岩かをるさん(2014年度受賞、株式会社薫陶塾 代表取締役/日本医療面接訓練評価センター 代表理事／受賞時67歳)

49歳の私が、子世代の医学生を応援！という篤い思いから、医学部の「模擬患者」活動を始めたのは1997年です。以来、SDGs活動の存続に悪戦苦闘する中、丸和育志会との嬉しい出逢いがありました。その《志》・理念・活動に感銘を受けて応募し、力強いサポートを得、「次世代をはぐくむ《志》で、“ありがとうが行き交う医療®”の実現」に鋭意邁進できております。今や「オンライン時代」。「オンライン医療面接訓練士®(模擬患者・家族)の“パイオニア”」として、これから益々重要になります「オンライン診療／服薬指導／保健指導」「遠くの家族・親戚と繋がるオンライン人生会議」の普及・浸透・促進のために、「オンライン医療面接訓練評価ガイド」を作成。「シミュレーショントレーニングプログラム」を確

立し、広めることに貢献してまいります。応募される皆様方とも、“切磋琢磨し、ともに学び育み合う”
関係構築を楽しみに応援しています。